

目次

理事長挨拶	P3
法人概要	P4
■診療事業	
・ 5 疾病・6 事業	P6
・ 地域医療	P7
・ 災害等における活動	P8
・ 新興感染症等への対応	P10
・ セーフティネットとしての確実な医療提供	P11
・ 医療の質・患者満足度向上のための取組	P12
・ 医療安全対策の充実	P13
■臨床研究事業	
・ 臨床研究	P14
■教育研修事業	
・ 医師のための教育研修	P16
・ 質の高い看護師等の育成	P18
■財務・経営	P20
■業務実績	P21
全国140の病院ネットワーク	P23

ロゴマーク

国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上を、飛翔する「翼」であらわし、柔軟な意識改革を示す毛筆で描きました。また、Health、Hospitalそして患者本意の懇切丁寧を意味するHospitalityの頭文字である「H」であらわし、健全な土台として描き、「翼」と組み合わせました。



理念

私たち国立病院機構は

国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために
たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに
患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し
質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

理事長挨拶

独立行政法人国立病院機構

理事長 新木一弘



平素より、国立病院機構の運営にご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

我が国では、2040年頃に向けて本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎えようとしている中で、求められる医療の形も大きく変化していきます。医療・介護などのサービス提供体制について、今後のニーズや人口動態の変化、コロナ禍を乗り越える中で顕在化した課題も踏まえ、質の高いサービスを効率的・効果的に提供できる体制を構築する観点から、地域包括ケアシステム及び地域医療構想(医療の機能分化と連携)の更なる推進、人材の確保・育成、働き方改革、デジタル技術の著しい進展に対応していくことなどが必要とされています。

国立病院機構の各病院が引き続き患者さんをはじめとする地域の方々に一層信頼されるためには、地域から求められる医療を安定的かつ継続的に提供していくことが重要です。機動性・柔軟性のある運営への見直しを進め、長期的な視点で業務運営を行いながら、法人全体として経営の持続的な健全性が保たれるよう取り組んでまいります。

国立病院機構は、平成16年4月の独立行政法人化以降、5年ごとに定める中期計画に基づき業務運営を行ってきました。第5期の中期計画期間(令和6年度～10年度)においては、新型コロナウイルス感染症対応で改めて明らかとなった全国的な病院ネットワーク等の人的・物的資源の強みを最大限生かしながら、災害や新興感染症等への備えや医療DX対応など、新たに求められる又は強化が求められる役割を含め、国の医療政策に積極的に対応することを目指してまいります。

また、必要な人材の確保・育成等を行うとともに、関係機関と連携しながら資金の確保に努め、国立病院機構のスケールメリットを生かして資金を有効活用し、法人経営の持続的な健全性が保たれるよう、経営改善に向けた不断の取組を進めてまいります。

皆様の温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。